

## リハビリテーション医療における評価及び実績

## 東京都保健医療計画(平成30年3月改定)の内容

## &lt;課題1&gt;

一貫したリハビリテーションの実施

## &lt;課題2&gt;

地域リハビリテーション支援体制の充実が必要

## &lt;課題3&gt;

東京都リハビリテーション病院の運営

## &lt;取組1&gt;

一貫したリハビリテーションの推進

## &lt;取組2&gt;

地域リハビリテーション支援体制の充実

## &lt;取組3&gt;

東京都リハビリテーション病院の運営

## 各指標の達成状況

## &lt;評価基準&gt;

A:達成している B:概ね達成している C:やや達成が遅れている D:達成が遅れている -:その他

項目	取組	指標名	策定時	目標値	実績				達成状況
					1年目	2年目	3年目	4年目	
リハビリテーション医療	取組1 取組2 取組3	リハビリテーションが実施可能な医療機関数	運動器 892施設 脳血管 537施設 呼吸器 319施設 がん 117施設 心大血管 86施設 (平成29年9月現在)	増やす	運動器 939施設 脳血管 561施設 呼吸器 324施設 がん 126施設 心大血管 95施設 (平成31年4月現在)	運動器 958施設 脳血管 565施設 呼吸器 325施設 がん 131施設 心大血管102施設 (令和2年4月現在)	運動器 996施設 脳血管 582施設 呼吸器 322施設 がん 132施設 心大血管102施設 (令和3年4月現在)	運動器1,030施設 脳血管 581施設 呼吸器 318施設 がん 120施設 心大血管109施設 (令和4年7月現在)	A
	取組1	回復期リハビリテーション病棟の病床数	7,057床 (10万人当たり 51.4床) (平成29年9月現在)	増やす	7,707床 (10万人当たり 55.6床) (平成30年12月現在)	8,075床 (10万人当たり 57.9床) (令和2年2月現在)	8,359床 (10万人当たり 59.9床) (令和3年1月現在)	8,106床 (10万人当たり 58.1床) (令和4年1月現在)	A

# 事業実績

東京都保健医療計画 (平成30年3月改定) の内容		事業名	事業概要	これまでの取組状況		令和3年度計画 (予算規模等)
課題	取組			令和2年度実績	令和3年度実績	
＜課題1＞ 一貫したリハビリテーションの実施	(取組1) 一貫したリハビリテーションの推進	○地域リハビリテーション支援事業	○おおむね二次保健医療圏ごとに指定している地域リハビリテーション支援センターを拠点に、地域において様々な形態で実施されているリハビリテーション事業を支援することによって、保健・医療・福祉が連携した地域におけるリハビリテーションのシステム化を図る。	○脳卒中地域連携バスの標準様式「東京都脳卒中地域連携診療計画書」をホームページに掲載し、普及啓発を実施 ○地域リハビリテーション支援センター（12医療圏） ・地域リハビリテーション提供体制の強化 ・訪問・通所リハビリテーションの利用促進 ・地域リハビリテーション関係者の連携強化	○脳卒中地域連携バスの標準様式「東京都脳卒中地域連携診療計画書」をホームページに掲載し、普及啓発を実施 ○地域リハビリテーション支援センター（12医療圏） ・地域リハビリテーション提供体制の強化 ・訪問・通所リハビリテーションの利用促進 ・地域リハビリテーション関係者の連携強化	地域リハビリテーション支援事業 ・12医療圏
		○地域医療構想推進事業（施設設備整備）	○地域医療構想に基づき、病床の整備及び病床機能の転換を行う医療機関に対し、改修・改築等の施設・設備整備に要する経費の一部を補助することにより、都における病床機能分化を促進する。 ○病床機能の分化・連携を進め、地域包括ケアシステムの推進を図るため、医療機能の強化を行う地域医療を支える医療機関に対し、改修又は増築の施設・設備整備に要する経費の一部を補助する。	○回復期機能の充実を図るため、回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟等の施設設備整備に要する費用について補助 ・施設（10施設） ・設備（1施設） ○病床機能の分化・連携や地域包括ケアシステムの構築に資する医療機能の強化に必要な施設設備整備に要する費用について補助 ・中小病院（53施設）	○回復期機能の充実を図るため、回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟等の施設設備整備に要する費用について補助 ・施設（10施設） ・設備（6施設） ○病床機能の分化・連携や地域包括ケアシステムの構築に資する医療機能の強化に必要な施設設備整備に要する費用について補助 ・中小病院（63施設）	○地域医療構想推進事業（施設設備整備） ・施設（17施設） ・設備（9施設） ○地域医療構想推進事業（中小病院支援） ・35施設
＜課題2＞ 地域リハビリテーション支援体制の充実が必要	(取組2) 地域リハビリテーション支援体制の充実	○地域リハビリテーション支援事業	○地域のリハビリテーション施設、自治体、関係団体等の参画による連絡会を開催し、地域リハビリテーションに関わる施設等の連携を推進する。 ○大規模災害発生後、被災者に対する生活不活発病予防、居住環境等の調整などのリハビリテーション支援ができるよう、災害時リハビリテーション支援体制の構築に取り組む。	○地域リハビリテーションに関する現状や課題等について意見交換や情報共有を行い、地域リハビリテーション関係者の連携を強化 ○地域リハビリテーション支援センター連絡会を活用し、支援センター職員を対象とした研修を開催したほか、支援センターの運営に関する課題の検討等を実施 ○東京都リハビリテーション協議会及び地域リハビリテーション支援センター機能強化検討部会において、災害時リハビリテーション支援体制を含めた地域リハビリテーション支援体制の強化等について検討	○地域リハビリテーションに関する現状や課題等について意見交換や情報共有を行い、地域リハビリテーション関係者の連携を強化 ○地域リハビリテーション支援センター連絡会を活用し、支援センター職員を対象とした研修を開催したほか、支援センターの運営に関する課題の検討等を実施 ○東京都リハビリテーション協議会及び地域リハビリテーション支援センター機能強化検討部会において、災害時リハビリテーション支援体制を含めた地域リハビリテーション支援体制の強化等について検討	○地域リハビリテーション支援事業 ・12医療圏
		○リハビリテーション病院運営	○東京都におけるリハビリテーション医療の中核的施設として高度診療機能を備え、身体に機能障害があり、リハビリテーション医療を専門的に行う必要のある患者に、外来及び入院による医療を行うとともに、医療関係者の教育研修やリハビリテーションの臨床研究を行う。 ○臨床研究に取り組み、その成果を学会に発表したほか、実習生、見学生を受入を実施	○急性期病院等との連携強化により、患者の受入れから退院後の支援まで切れ目ないサービス提供を行うほか、日・祝日も月曜から土曜までと同等のリハビリテーション訓練を行う「365日リハビリテーション」を実施 ・入院患者数 51,093/年 ・外来患者数 8,210/年 ○臨床研究に取り組み、その成果を学会に発表したほか、実習生、見学生を受入を実施	○急性期病院等との連携強化により、患者の受入れから退院後の支援まで切れ目ないサービス提供を行うほか、日・祝日も月曜から土曜までと同等のリハビリテーション訓練を行う「365日リハビリテーション」を実施 ・入院患者数 48,519/年 ・外来患者数 7,916/年 ○臨床研究に取り組み、その成果を学会に発表したほか、実習生、見学生を受入を実施	○リハビリテーション病院運営 ・入院165床 ・外来50人/1日
＜課題3＞ 東京都リハビリテーション病院の運営	(取組3) 東京都リハビリテーション病院の運営	○地域リハビリテーション支援事業	○地域リハビリテーション支援センターとして、地域リハビリテーションに関わる施設や行政等と連携し、地域リハビリテーションの支援を行う。	○地域リハビリテーション支援センターとして、地域の関係機関等と連携を推進するとともに、研修等を実施 ○地域リハビリテーション支援センター連絡会のとりまとめ役として、支援センター職員を対象とした研修会を開催するなど、連絡会の取組を推進	○地域リハビリテーション支援センターとして、地域の関係機関等と連携を推進するとともに、研修等を実施 ○地域リハビリテーション支援センター連絡会のとりまとめ役として、支援センター職員を対象とした研修会を開催するなど、連絡会の取組を推進	○地域リハビリテーション支援事業（区東部圏域）
		○退院支援の強化により、入院療養の質の向上に寄与し、安心して退院後のより良い在宅医療を継続できるような支援を実施	○退院支援の強化により、入院療養の質の向上に寄与し、安心して退院後のより良い在宅医療を継続できるような支援を実施	○退院支援の強化により、入院療養の質の向上に寄与し、安心して退院後のより良い在宅医療を継続できるような支援を実施		

## 委員の皆様からの意見

- ◎ 指標に対する都の評価については、妥当である。
- 超高齢者社会の医療において、急性期、回復期、維持期、終末期のどの時期においても必要不可欠となるリハビリテーション医療が、地域在宅の環境においても着実に取り組まれてきた実績は高く評価でき、関係する多くの専門職の日々の取組みの成果と考える。
- 地域リハビリテーションの現場では介護予防・フレイル対策などの高齢者対応だけでなく、小児障害者、就学・就労の課題を持つ方など多様な障害の対応が求められている。医療介護福祉だけでなく、より幅のある、横の連携が取りやすい仕組みづくりが必要である。
- リハビリテーションの現場は、新型コロナウイルスの感染のリスクが高い。感染対策支援を望む。